

く 今日の説教のポイント 3つの聖書箇所から >

1 ウクライナ、ガザ等の悲惨 — 聖書から得られる答えは？

戦争による悲惨なニュースに胸が張り裂けそうな一年でした。この問題について聖書から聞き、新しい年に向かいたいと思います。

2 イザヤ書 19 章 16-25 節 旧約聖書が示す広がりある福音(神の恵み)

アッシリアとエジプトは神の民イスラエルを苦しめた民の代表です。しかしこの箇所は神様の預言の言葉として驚くべき内容を語ります。いつの日かアッシリアとエジプトは共に仲良くなり、イスラエルと共に「主なる(原語はヤハウエ。固有名詞。出エ 3:14-15) 神)」を礼拝する日が来ると告げられるのです。旧約聖書の神からして、「悪しき者」の滅びを望まれる神ではないのです(特に 22 節に注目)。

3 エゼキエル書 33 章 14-20 節 正しい主の道とはどんな道？

エゼキエル書 18 章や 33 章で、聖書の神様は「人がどんなに悪にまみれた道を歩んで死んでいったとしても、その罪深さに気づいて歩み直し始めたなら生かす」と何度も告げられています(特に 11, 14-16 節)。また、「悪人は死ぬ、正しい人は生きる」と語られた上で「それはいったん言い渡されたら変わらないものではない」とも繰り返し語られています。一見不思議な、しかしこの神様にしてできる破格の恵みの内容です。人間の絶望的な罪深さに対して救いの道があるとするなら、この「主の道」(17, 20)なのではないでしょうか。

4 エフェソの信徒への手紙 2 章 14-16 節 隔ての壁を打ち壊す主。

新約聖書で示されるイエス様は、まさにこの神様が送って下さった不思議極まりない、しかし、この「主の道」に適った救い主ではないでしょうか。罪人の罪を自らが負い、それによって罪人の罪が赦される。赦された者はそれに心打たれ、主に応えて新しい生き方をし出す(エゼキエル書 33:15)。人間の罪故に神様が終わりにされても仕方ないこの世界に光が届き、生き続けていいという希望イエス・キリストが与えられる。これが聖書から示される内容です。

5 リヨンの教会の歴史から学ぶ ドレフュス事件への取り組み等

教会報 39, 40 号に記されたリヨンの教会の歴史から多くのことを教えられました。なお困難が続くであろう新しい年も、神様を見つめ、聖書の御言葉に聞きながら、為すべきことに取り組んでいきましょう！